

都市再生整備計画 事後評価シート

仁連地区

令和2年3月

茨城県古河市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県	市町村名	古河市		地区名	仁連地区			面積	70ha	
交付期間	平成27年度～平成30年度	事後評価実施時期	令和元年度		交付対象事業費	1,174百万円	国費率	0.4			

1)事業の実施状況

当初計画に
位置づけ、
実施した事業

基幹事業

【道路】市道三和4203号線 【地域生活基盤施設】広場整備、防災拠点サイン、耐震性貯水槽設置 【高次都市施設】古河市三和地域交流センター

提案事業

【事業活用調査】

当初計画
から
削除した
事業

基幹事業

提案事業

新たに追加した
事業

基幹事業

提案事業

交付期間
の変更

当 初

平成27年度～平成30年度

交付期間の変更による事業、
指標、数値目標への影響

変 更

事業名

削除/追加の理由

削除/追加による目標、指標、数値目標への影響

2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標	単 位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
			基準年度		目標年度		モニタリング	評価値				
指標1	地域の活動拠点の利用者数	人/年	26,563	H26	32,000	H30		69,417	○	あり	旧三和公民館の機能を既存の三和庁舎3階の一部に転用したことで、新たに建設した交流センターをホールに特化させることができたため、今までの利用形態にない講演会などの大規模なイベントが増加し、目標値を大きく超える数値となった。	
										なし		
指標2	地域のコミュニティ団体の活動事業数	事業/団体	4.6	H26	5.6	H30		6.2	○	あり	交流センターが建設され機能が拡充されたことにより、地域交流の重要性が認識され地域コミュニティ活動が活発に行われる結果となった。	
										なし		
指標3	防災訓練実施コミュニティ団体数	団体	1	H26	2	H30		3	○	あり	耐震性貯水槽設置や避難路整備により避難所機能の拡充を図ったことと、近年の国内における災害が多発していることから、住民の防災意識の高まりを受け防災訓練を実施するコミュニティ団体が増加した。	
										なし		

3)その他の数値指標
(当初設定した数値
目標以外の指標)に
よる効果発現状況

指 標

単 位

従前値

基準年度

目標値

目標年度

モニタリング

評価値

目標
達成度※1

1年以内の
達成見込み

効果発現要因
(総合所見)

フォローアップ
予定時期

その他の
数値指標1

その他の
数値指標2

その他の
数値指標3

4)定性的な効果
発現状況

老朽化した公民館機能を新設する施設に全て求めるのではなく、既存施設を利用し新設する費用を抑えて交流センターに地域にあった規模のホールを建設することができたため、新たなイベントを実施することができ、新たな文化・交流を創出することができた。耐震性貯水槽設置や避難路整備、防災拠点サイン設置を行うことで避難場所の充実を図り、住民の防災意識の向上につながった。

5)実施過程の評価

モニタリング

実施内容

実施状況

今後の対応方針等

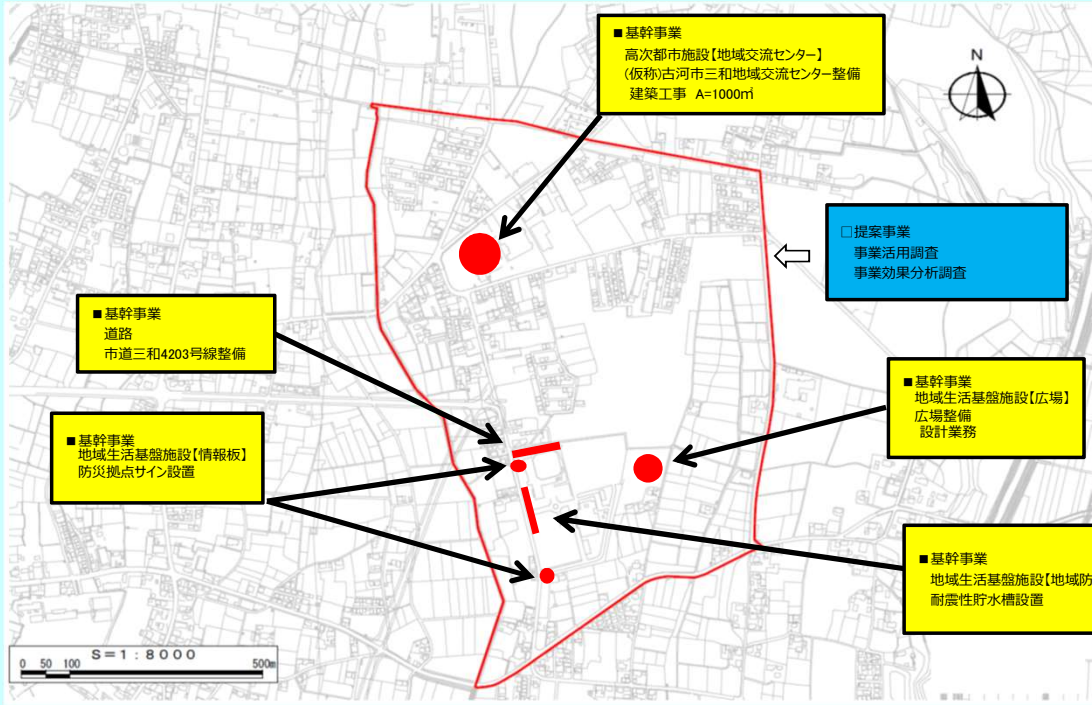
住民参加
プロセス

都市再生整備計画に記載し、実施できた
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった

持続的なまちづくり
体制の構築

都市再生整備計画に記載し、実施できた
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった

様式2-2 地区の概要

仁連地区(茨城県古河市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:人々が活気に溢れ、快適で安心して暮らせる緑の恵み豊かな里づくり 小目標1:活動拠点整備による文化創造や交流創出と地域コミュニティの活性化 小目標2:災害時の避難環境の充実による快適な生活環境の形成		地域の活動拠点の利用者数	単位:人/年	26,718	H26	32,000	H30	69,417	R1
		地域のコミュニティ団体の活動事業数	単位:事業/団体	4.6	H26	5.6	H30	6.2	R1
		防災訓練実施コミュニティ団体数	単位:団体	1	H26	2	H30	3	R1
									
市道三和4203号線						(仮称)古河市三和地域交流センター			
									
防災拠点サイン(避難所)									
まちの課題の変化		・交流センター建設に伴い、既存三和庁舎3階の一部を交流センターとしたことで建設した交流センターをホール棟とすることができた。これにより、課題であった活動拠点の機能不足も解消された。 ・三和地区に整備されていなかった災害用の貯水施設も耐震性貯水槽を整備することで改善され、道路整備・防災拠点サイン設置により避難誘導環境も向上した。							
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)									